

■宇部市本庁舎建設基本計画(素案) パブリックコメント実施結果について

資料1

1 実施概要

- (1)意見募集期間 平成28年7月7日(木曜日)から7月27日(水曜日)まで
- (2)意見募集方法 郵送、持参、ファックス、メール
- (3)意見提出者数 15人
- (4)意見件数 51件

2 提出された意見への対応

	件数	今後の参考とし、計画に反映していないもの	意見を踏まえ反映したもの	備考
計画全体に関わるもの	1件	1		
本庁舎の現状と新庁舎の必要性	2件	2		
基本計画の考え方	5件	5		
新庁舎の性能	3件	3		
新庁舎の機能	9件	9		
新庁舎の性能と機能の両方に関わるもの	2件	2		
新庁舎の規模	2件	2		
税務署との一体的整備	1件	1		
新庁舎の敷地と配置計画	14件	14		
事業手法	1件	1		
概算事業費及び財源	4件	4		
スケジュール	2件	1	1	修正箇所 P36 スケジュール 【意見の内容】「建設物価の動向によっては見直しを行う可能性を記載している以上、本計画では具体的な年度は記載すべきでない。」 →【意見への対応】「今後のスケジュールについては、設計から建設工事までを一連で進めた場合、以下の通りと想定しています。ただし、建設時期については建設物価の動向を踏まえ判断します。」と修正。
施設管理・運用に関する考え方	3件	3		
今後の進め方について	1件	1		
その他	1件	1		
計	51件	50	1	

■宇部市本庁舎建設基本計画(素案) パブリックコメント実施結果について

1 実施概要

- (1) 意見募集期間 平成28年7月7日(木曜日)から7月27日(水曜日)まで
- (2) 意見募集方法 郵送、持参、ファックス、メール
- (3) 意見提出者数 15人
- (4) 意見件数 51件

2 提出された意見とその意見に対する市の考え方

No.	意見の項目	該当ページ	意見	意見に対する市の考え方	参考ページ
1	1 本庁舎の現状と新庁舎の必要性	P3~4	<ul style="list-style-type: none"> ・機械室、電気室(非常電源設備)のノンダウン化は必要だと思うが、新庁舎と別棟建屋(例えば立体駐車場の屋上)にしたら。 ・保管図書、防災資材、保存食(?)等も別棟建屋に保管。 	機械室や電気室、保管図書等の保管場所については、設計段階で検討していきます。	P19 P20
2	1 本庁舎の現状と新庁舎の必要性	P5	市役所は行政事務サービス、市議会中心の機能で新たに、まちづくり拠点機能をつける必要はないと思う。その分ふれあいセンター等を充実すべき。	新庁舎は、中心市街地の核となる施設、また市民利用機能を備えた市民に親しまれる施設として③市民の交流を生み、市民の活動を支える庁舎、⑦まちづくりの拠点としての庁舎、のコンセプトは重要と考えています。	P8 ~ P11
3	2 基本計画の考え方	P8	中心市街地のにぎわい創出は、新庁舎の役割?基本構想の理念のコンセプトのうち、庁舎建設に当り③市民の交流を生み、市民の活動を支える庁舎、⑦まちづくりの拠点としての庁舎、は必要なしと思う。		
4	1 本庁舎の現状と新庁舎の必要性~6 税務署との一体的整備	P7・8・13 ・15・27・28	合理的な理念であると思う。早急に推進してほしい。	現本庁舎が抱える様々な課題の解決のため、市としても早急な建替えが必要であると考えていますが、建設時期については、建設物価の動向を踏まえ、判断していきます。	P7 P36
5	2 基本計画の考え方	P8~11	<p>新庁舎建替えは、償還期限を25年(3年据置)の市債発行(P35)とあるものの、宇部市の人口は、今後更に減り続け25年後(2040)に25%減の13万人を切る。同様に生涯労働人口も減り税収入は3割弱の減少見込みが避けられず建築費の負担が重くのしかかる。財政状況を十分検討のうえ50年・100年後の未来を見据え発展的に「万能機能型複合庁舎」即ち、新宇部方式と捉え本市の発展と共に未来に向け二度とない「好機」であり強い指導力・決断力が求められる。「軸足」を固めた上で、次なるコンパクトシティ実現に向け大きく加速することを希望する。</p> <p>今後求められる新庁舎は、行政単独使用に捉われず「多目的複合施設」として効果的・有効的な機能を備えることにより市民から多くの理解と賛同が得られる。また、常盤通り・新真締川公園と共に「緑」に囲まれた「新庁舎(複合施設)」は多くの市民が来庁し買物等楽しみ緑を感じつつろぎ、人が集まり親しまれるランドマークとなりココから活性化が生まれる。</p> <p>未来に向け変革と多様性を追求しなければならないとき、決して背を向けてはいけない！そして、自然環境に恵まれた住みやすい「うべの未来づくり」に情熱・郷土愛をもって市制100周年を目前にし次世代を託す子ども達の想いにはせ活力と魅力ある「元気都市うべ」を目指すことが重要である。今こそ変革のチャンスと捉え未来の扉を開けるべく「新庁舎建替」に対し「チームうべ」の一員として100プロのパブリックコメント(意見)を力強く申し上げます。</p> <p>何故ならば、新庁舎は市民の顔(玄関)だから・・・!</p>	<p>新庁舎の建替えに当たっては、「緑と花と彫刻のまち”宇部の美しさを感じ まちづくりを先導する場であること」、「市民交流・協働を支え、宇部市民みんなに愛され つくりあげられる場であること」、「無駄がなく、時代の変化に対応しながら快適で安全に使い続けられる場であること」を新庁舎の役割として実現していくこととしています。</p> <p>その役割を実現化していくために導入すべき機能を、設計段階において市民の皆様の意見を伺いながら検討していきます。</p>	P11
6	2 基本計画の考え方	P8	市役所の敷居をもっと低くする。市役所に用のない人でも気軽に立ち寄り一服できるような雰囲気のある場所。	本基本計画では、P.11に示した新庁舎の役割の一つ「市民交流・協働を支え、宇部市民みんなに愛され、つくりあげられる場であること」の考え方として「明るく親しみやすい空間とし、市民が集う場とすることで、まちのにぎわいを創出する。」ことを掲げています。市民の皆様が気軽に立ち寄れる空間とするため、飲食・休憩スペースの設置等を設計段階で検討していきます。	P11 P18
7	2 基本計画の考え方	P12	新庁舎の性能と機能について、コスト面を重視した市の考え方を提示すべきと思う。アンケート・ワークショップ等は概してコストアップとなる。	新庁舎の役割を実現していくため、基本計画策定段階では市民アンケートやワークショップ等による市民の皆様の見解を参考に、備えるべき『性能』と導入すべき『機能』を整理しました。この中で「経済性」として、無駄のない仕様により建設費を抑制することや、維持管理費を抑えた経済性の高い建物とすることを示しています。『性能』や『機能』については、経済性も配慮し、設計段階で検討していきます。	P12 P13

No.	意見の項目	該当ページ	意見	意見に対する市の考え方	参考ページ
8	2 基本計画の考え方	P8～12	<p>住む人はもちろん、一度訪れた人にとっても、映画やテレビで見た人にとっても、忘れられない“個性があり魅力のあるまち”のシンボルとなる建物が必要です。</p> <p>そのためには、瀬戸内海にはじまり、厚東川や真締川そして常盤湖など“水”に面した「ウォーターフロント・シティ」としての個性、また、開港50年を迎え空の玄関としての機能を拡充している「山口宇部空港」を有した「エアフロント・シティ」としての魅力も備えていることから、これらの個性と魅力を活かした新庁舎建設の視点も必要です。</p> <p>今後、「国際化の時代」、「大交流の時代」にふさわしい新庁舎建設を考えると、これまで議論されてきた、主として地域内の視点による「基本構想の理念と7つのコンセプト」に、地域外の人とのインタラクティブ・コミュニケーションを加えて考えてみたらどうでしょうか。</p> <p>つまり、“宇部を訪問する人の外からのイメージ”、いわば「外からの視点」と「インタラクティブ・コミュニケーション」を考えると、新庁舎建設の進め方に新たな手法も付加され、「個性的で魅力ある市庁舎建設」につながるのではないのでしょうか。</p> <p>については、以下の三つの視点を加味して今後の検討を進めていただきたく、意見を提出します。</p> <p>①情報公開無くして参加無し： めざすべき新庁舎建設について、至極丁寧に市民からの声を聴こうという姿勢を実行した結果、市民の間で十分に議論されていることは今まで無かったことと評価できますが、『第7回基本計画検討委員会』の議事録にもある通り、「市庁舎が現地建替えされることが十分に伝わっていない。市広報による周知やチラシを全戸配布する等、情報発信をもっとしっかりしてほしい」、「市民の関心の高まりが感じられない」との意見が今なお出続けていることを、市として重要視し深刻に受け止めて、今後さらに市のあらゆる広報媒体等を通じて、もっと時間をかけ、もっと丁寧に、市民とのインタラクティブなコミュニケーションを深め、拙速との指摘が無いように努めるべきです。 (注)最近の例で、山口市が「市本庁舎の整備に関する検討委員会の設置」等に関する情報を市の広報紙を通じて、具体的かつ詳細に市民に提供していることを参考に、今後の進め方については再検討してほしいと考えます。</p> <p>②市民とインタラクティブなコミュニケーションを： これまで、構想づくりから竣工後の運営までそれぞれの段階で、市民が関わりながらゆっくり時間をかけて、関係者相互に納得しながら市庁舎づくりを進めて行きたいという思いが醸成されています。 さらにこれを活かし推し進めて、 ア市民が新庁舎建設の考え方を理解出来るようになること、 イ市が市民の情報を収集出来ること、 ウ新庁舎建設計画をさらに改善できる可能性があること、 などの意義があると思われる「PI(パブリック・インボルブメント)方式」を積極的に導入すべきです。 このことが、市民が積極的に庁舎づくりに参画し、意見や知恵を出し合っていくこととなり、結果的として、新庁舎が単なる行政庁舎にとどまらず、市民の交流の場、まちづくりの拠点として、中心市街地に大きな波及効果をもたらす「にぎわい創出に向けたプロジェクト」となると期待できるからです。</p> <p>③情報発信ツール、広報活動の素材としての戦略的な活用を： 「50年に一度あるか無いかの大事業」との市長の発言がありました。 いま市民の間には、「自分たちの住むまちを人に誇れるようなまちにしたい」という関心が高まり、地域のアイデンティティの確立を訴え、まちの個性を大切にしようとする動きも芽生えているのではないのでしょうか。 このような時、市としてはこの一大プロジェクトを「情報発信のツール」、「広報活動の素材」として考えてみれば、色々な手法が思い浮かび、新たなコミュニケーション戦略も構築できるのではないのでしょうか。 新庁舎は、宇部市民の心を映す鏡であり、自画像であるといつてよく、自ら考え、参画しようとする市民にとっては、「新庁舎」は我がまちの宝として、その地域文化やその人々の感性を反映した“個性的で魅力ある作品”となる筈です。 そして、テレビで毎年繰り返されるイベントが人々の心に焼き付けられるように、宇部の新庁舎建設プロジェクトそのものが、様々な試みを内外の人々に見せながら進行することによって、繰り返されるテレビや雑誌等メディアの取材、新聞のニュースが「宇部市の新しいシンボル」を情報発信しながら、絶えず育てていくという期待もできます。 基本構想をうけて展開する基本計画段階と基本設計段階は、新庁舎建設の命運を握る、特に重要な段階と言えます。 そのために、いま最も大事なものは、「個性的で魅力ある宇部のシンボル・新庁舎建設」のコンセプトづくりと実行であると言えます。</p>	<p>市としても新庁舎建設については、市民の皆様が積極的に参画し、意見やアイデアを出し合っていただく必要があると考えています。 今後も市ホームページや広報うべ等を通じて、新庁舎建設事業の進捗状況を随時、情報発信していくとともに、市民の皆様が積極的に庁舎づくりに参画し、意見やアイデアを出し合っていただくためのワークショップの開催等、事業の進捗に応じた市民参画を図っていきます。</p>	P39
9	3 新庁舎の性能	P13	<p>耐津波 Aパターン時の床面高さは現行の庁舎と同じですか？ 南海トラフ時の予想津波高さに耐えられるか？</p>	<p>新庁舎の地盤高は、現時点では未定です。設計段階で検討していきます。 また、南海トラフ地震発生時の津波の想定については、平成25年12月に山口県が作成した「山口県瀬戸内海沿岸における津波浸水想定」の発表から、津波による浸水はないと想定しています。</p>	P3

No.	意見の項目	該当ページ	意見	意見に対する市の考え方	参考ページ
10	3 新庁舎の性能	P13	高齢者、障害者に配慮した庁舎にしてほしい。 (1) 庁内インフォメーションから各部署へわかり易く行ける様、色分けラインを引くなど。 (2) 市役所内で、福祉、子供関係、教育、その他業務手続きが他へ移動しなくて済む様にする。(教育委員会なども庁舎内に) (3) 高齢者、障害者が車を利用せず、玄関までバスが入れる様車寄せがあれば100円バスを利用する方が増えるのでは。	(1) 新庁舎建設に当たっては、障害者・高齢者・子ども連れ等、各々のニーズにきめ細かく対応したユニバーサルデザインの徹底を図ります。 (2) 窓口の利便性向上のため、集約できる業務の整理を行いながら、一つの窓口で複数課の手続を行うことができる総合窓口の導入を積極的に進めます。 (3) 車寄せの設置を計画していますが、その規模や設置場所等については、設計段階で検討していきます。	P13 P16
11	3 新庁舎の性能	P14	耐震強度(構造)を完璧にして震災時に指揮命令が出来るようにする。	大規模な地震が起きた時、本庁舎は災害対策本部の設置、救助活動や復旧活動の指揮及び災害情報の迅速な収集、伝達等を行う「司令塔」の役割を果たす必要があります。 そのため、耐震安全性については、防災危機管理拠点としての機能を十分確保できるよう今後の設計段階で検討していきます。	P14
12	3 新庁舎の性能 4 新庁舎の機能	P13 ~P21	ICTを推進してほしい。市民の利便性を高めて下さい。	手続用窓口や執務空間、議会図書室等についてはICTの利活用により、市民の皆様が利用しやすく、また業務の効率化が図れるよう検討していきます。 その他、新庁舎の利便性向上については、今後の基本設計段階において、市民の皆様のご意見を伺いながら検討していきます。	P16 P20 P21
13	3 新庁舎の性能 4 新庁舎の機能	P13 P15~ P18	1階エントランスを開放的にして市民がはいりやすい空間にする。	具体的な庁舎のレイアウト等については、設計段階で検討していきますが、だれもが訪れやすく、また気軽に立ち寄れる空間を目指します。	P13 P15~ P18
14	4 新庁舎の機能 (市民活動支援機能)	P17	「多目的ホール」は本庁舎には必要なし。	現段階では、150名~200名を収容可能な「多目的ホール」を設置する計画としていますが、設計段階で市民の皆様の意見を伺いながら検討していきます。	P17
15	4 新庁舎の機能 (市民活動支援機能)	P17	「緑と花と彫刻」のまちづくりの精神に相応しい新庁舎建設整備を： 全国に先駆け、いち早く彫刻を街の風景の中に取り込むなど、官民挙げて景観形成をリードしてきた宇部市に相応しい全国に誇れる新庁舎建設整備が望まれます。 新庁舎には宇部市街地の発展経緯の一部(常盤通りの軸と「ヒストリア宇部」の壁面軸の角度の振れ)や村野建築が見渡せる空間機能を設け、市民が宇部市の過去~現在~未来に輝く展望を共有できる場と併せて福原越後や渡辺祐策をはじめとする「宇部出身者」や村野藤吾や向井良吉などの「宇部以外の地域の出身者」であっても、宇部市の地域づくりに大きな貢献をした先人の顕彰コーナーの場の整備が望まれます。	新庁舎建設に当たっては、新庁舎の果たすべき役割のひとつを「“緑と花と彫刻のまち”宇部の美しさを感じ まちづくりを先導する場であること」と考えており、良好な景観を形成するよう設計段階で検討していきます。 また、「情報発信コーナー」を待合ロビーとの連携を考慮し設置する計画としていますが、その具体的な規模や内容については、市民の皆様の意見を伺いながら設計段階で検討していきます。	P11 P17
16	4 新庁舎の機能 (まちづくり拠点機能)	P18	庁舎ゾーンにバスを乗り入れるルート、高齢者・幼児づれに優しいバス停を作る。(庁舎へ来る時はバスがベストなように庁舎から八方へ繋がるルート・時間表を作る。)	公共交通利用促進の観点からも、バス待合スペースの設置等によりバスの利便性を高めるよう計画しています。具体的な配置や設備については、設計段階で検討していきます。	P18

No.	意見の項目	該当ページ	意見	意見に対する市の考え方	参考ページ
17	4 新庁舎の機能 (まちづくり拠点機能)	P18	市役所の最上階に食堂兼憩いの場(展望室)を作る。そして、一般に開放する。それにより ・海外からのVIP対応も更に充実し宇部市をPRするにしても都合が良くなる。 ・花火大会時には開放(入場料を取る?)して見物ができるようにする。 ・最上階へのアクセスは外部から上げられる専用のエレベーターを付ける。 ・このエレベーターは常時は外部から食堂兼憩いの場用とし外来者専用を使う。 ・コーヒーサロン、コンビニ等商業施設を入れ、貸し出す。 ・宇部の街に出たら「市役所に行って見たい」「市役所で休憩したい」「待ち合わせ場所は市役所の最上階」等市役所イコール楽しいと言うイメージが湧いてくる要素が必要。 ・「人が動く」ことにより活気が出て、楽しい会話も生まれる街になる。 ・ハード面でも収益が出る工夫をする。ソフト面では、経営感覚を身につける。	本基本計画においても、飲食・休憩スペースを設置し、市民の皆様が気軽に立ち寄れる空間をつくることを計画していますが、その配置場所や具体的な施設の内容については、市民の皆様の意見を伺いながら設計段階で検討していきます。	P18
18	4 新庁舎の機能 (防災機能)	P19	【防災倉庫】 大規模災害が起こったとき、中心市街地は道路が混雑して物資の運搬がスムーズに行えないかもしれないので、新庁舎敷地ではなく、フジグラン近くの曳山用倉庫を利用する。代わりに曳山用の倉庫を庁舎敷地に置く。そうすれば祭りの時に移動に苦労しなくてすむ。	防災機能の非常用電源設備や備蓄倉庫については、その規模や配置場所、使い方等を設計段階で検討していきます。	P19
19	4 新庁舎の機能 (防災機能)	P19	防災機能のうち非常用電源設備、備蓄倉庫等は別棟建屋内に保管したらどうか。		
20	4 新庁舎の機能 (執務機能)	P20	民間企業が利用しているジャストインタイム方式等を取り入れ業務のムダや経費節約を考えては。	執務機能については、OA機器の集中配備や電子決裁システム等、ICT化の推進等を検討し、職員が効率的に働ける空間を目指していきます。 また、新庁舎の性能・機能については、イニシャルコストの軽減だけでなく、ライフサイクルコストの抑制につなげていくことを設計段階で検討していきます。	P20
21	4 新庁舎の機能	P16 ~21	1階: 福祉関係(子どもも含む)、保険年金課、市民課、収納を含む税関係、真中に総合窓口、福祉と保険年金の間に相談コーナー(プライバシーに配慮が必要な相談のみ受ける場所)、喫煙所・食堂・託児コーナー 2階: 上下水道・道路・防災 3階 会議室、ボランティア団体の事務局 その他: 議場は市民にも開放		
22	4 新庁舎の機能 5 新庁舎の規模	P16 ~P21 P26 ~P27	【新庁舎(案) 1階】 ※新庁舎を3階~4階建てとする ①窓口機能(市民課)は、訪れやすく利用しやすさが特に求められることから、使用スペースは十分に確保し税務署(国税局)業務と共に親しみやすいスペースが必要となる。 ②(例)金融機関(ATM)郵便・個店・食堂街・商店施設等、積極的に誘致(入庁)する。また、観光コンベンション協会・市民活動支援・情報発信・ミニ飲食コーナー及び休憩スペース等を設けることにより市民サービスの向上および「集い/憩いの場」として市民の交流を生み出しやすい「新庁舎」は街づくりの拠点となり観光都市としても動き始める。 【新庁舎(案) 2階、3階、4階及び駐車場】 ①2階部分(多目的ホール及び行政業務) *3階以上は行政業務専用スペースとする。 ②2階部分には(例)福祉・宇部歴史資料館・特別展示場・催事場・多目的ホール・ギャラリーホール・子育て支援スペース・各種会議場(一部税務署使用含む)・レンタル会議室(有料)並びに市内の新規事業含む企業向け貸事務所(有料)を数か所設置する。 ③特別室(市長室ほか)市会議室・議場及び特殊機能室(防災機能)等含むスペースは、立体駐車場の最上階部分に設ける。*場合によっては一部4階又は5階部分となる。 ④駐車場は、現駐車場に地下1階(60台//公用車専用)地上3階(180台)~4階(240台)立体駐車場を建設する。その上で可能な限り新庁舎屋上を活用し駐車場(約100台)を設ける。 また、屋上駐車場の屋根部分には太陽光発電(ソーラー設備)を設置する。*家賃・駐車場代金を含む財源(収入)を恒久的、安定的に確保することができる。	新庁舎の階数や導入する機能、各部署の配置等については、設計段階で市民の皆様のご意見を伺いながら、来庁者の利便性や事務の効率化等に考慮し、検討していきます。 いただいたご意見についても参考とさせていただきます。	P12~21

No.	意見の項目	該当ページ	意見	意見に対する市の考え方	参考ページ
23	5 新庁舎の規模	P22	【規模】 人口12万～13万人を基準に考える。10年後にはそれ位の人口になっていると思うから。	平成27年10月に策定した「宇部市人口ビジョン」の将来展望人口では、平成37年時点の人口を約15.9万人、平成52年時点の人口を約14.4万人と見込んでいます。 人口減少を踏まえ、職員数についても組織体制や事務の見直しを行いながら削減していく必要がありますので、極力無駄なスペースを省くとともに、将来的な余剰スペースが生じた場合には他の公共施設の統廃合等にも利用できるよう用途変更のしやすい構造・形状を設計段階で検討していきます。	P22
24	5 新庁舎の規模	P23	各種証明書の発行等、各校区のふれあいセンターでできることは、センターを利用してもらい、その分本庁舎をコンパクトにする。	新庁舎の窓口機能については、来庁者の利便性向上のため総合窓口の導入を積極的に進める計画としています。 その中で、手続用窓口業務については、マイナンバー制度を始めとする今後の制度変革やICTの利活用により、窓口のあり方が大きく変わる可能性があります。 設計段階では、これらを踏まえ、極力無駄なスペースを省いた適正規模の検討を行うとともに、将来の市民ニーズの変化に柔軟に対応できるよう、用途変更が可能な構造や形状等を検討していきます。	P16
25	6 税務署との一体的整備 7 新庁舎の敷地と配置計画	P27 P28	この考え(税務署との一体的整備)は、素晴らしいと思います。 駐車台数は来庁者専用でしょうか。 台数は余裕を持ったほうがよいのでは。	駐車台数300台には、来庁者用駐車台数だけでなく公用車駐車台数も含んでいます。 来庁者用駐車台数を試算した結果は243台となりましたが、現状台数(144台)で不足する日が限られていること等を考慮した結果、新庁舎の駐車台数は、試算結果の来庁者用台数程度の250台を確保する計画としました(市機能のみ)。これに税務署の現状台数約50台を追加し、300台としました。 なお、繁忙期等には利用状況を注視し、来庁者用駐車台数が不足する場合は、公用車の駐車スペースを敷地外に確保する等の運用で対応することとします。	P26 P27
26	7 新庁舎の敷地と配置計画	P28	バス停利用者を考えると弱者及び高齢者に配慮。	公共交通利用促進の観点からも、バス待合スペースの設置等によりバスの利便性を高める計画としていますが、その検討に当たっては、誰もが快適に利用できるようユニバーサルデザインにも配慮します。	P18
27	7 新庁舎の敷地と配置計画	P28	建築敷地として西側の市道(真締川東通線)を取り込んだらどうでしょうか？ P10の整備方針に「真締川公園を水が感じられる公園へとリニューアルし、市役所と一体的に交流機能を整備する」とあります。市道を取り込むことで、市役所の「広場ゾーン」と真締川公園との交流空間の一体化が演出でき、「広場ゾーン」が広く感じることができます。また、駐車場の広さなどに余裕ができます。 検討をお願いいたします。	市道真締川東通り線を廃止するかどうかは現段階で未定ですが、新庁舎の建設敷地としてではなく、真締川公園の一部として取り込みたいと考えています。 ご提案いただいたように、市としても真締川公園と一体的に整備し、交流空間の一体化を図りたいと考えています。	P10 P28
28	7 新庁舎の敷地と配置計画	P28	【28ページ 新庁舎の敷地と配置計画】 新庁舎の建設敷地に真締川東通線は含まれていないようだが、真締川公園との一体整備に配慮した配置計画とすべきである。		
29	7 新庁舎の敷地と配置計画	P28	工事中の市民の駐車場確保をどうするか、記述なし。		
30	7 新庁舎の敷地と配置計画	P28	【工事中の駐車場】 周辺の駐車場を借用する等して対応するが、基本的には身障者用以外は公共機関を使ってもらえばよい。	工事期間中の来庁者用駐車場の確保については、基本設計で決定する配置計画を踏まえた上で、市民の皆様に来るだけ負担がかからない方法を検討します。	—
31	7 新庁舎の敷地と配置計画	P28	建設費抑制のため、最も廉価なパターンを、市として提示すべきと思う。広場ゾーンは最低限のスペースとすべき。	基本計画で示した3パターンのゾーニングの中で最も廉価なパターンは、『コスト』を重視した案であるAパターンです。 広場ゾーンを含めた配置計画については、基本設計で検討していきます。	P29 P30

No.	意見の項目	該当ページ	意見	意見に対する市の考え方	参考ページ
32	7 新庁舎の敷地と配置計画	P29 P30	全国に例のない市庁舎を目指す。低層階(1～2階)の建物。敷地が不足ならば、現駐車場にかぶせる形で建設する。広場のゾーンは庁舎屋上をグリーン(庭園風)にする。東京では絶対実現不可能。	新庁舎の階数や配置計画、庁舎屋上の使い方については、いただいたご意見も参考にしながら、設計段階で検討していきます。	P28～30
33	7 新庁舎の敷地と配置計画	P29 P30	・特別委員会の100周年を新庁舎というメモリアルな考え方は実際のA～Cパターンではもう無理と考えられているのか。 ・建物のデザインを特に考えられているのか。	本基本計画で示したスケジュールは、設計から建設工事までを一連で発注及び建設した場合として記載していますが、建設物価の動向を踏まえ建設時期を判断します。現段階の想定では、Cパターンの配置となった場合、市制100周年の年である平成33年度中の新庁舎供用開始は困難と考えています。 具体的な建物のデザインについては、設計段階で検討していきます。	P36
34	7 新庁舎の敷地と配置計画	P29 P30	経済的リスクを考えるとAパターンイメージを考慮して行けたらと考えます。	配置計画については、基本設計の中で各パターンのメリット・デメリットを整理しながら検討していきます。 工事の時期については、東日本大震災や熊本地震による復興需要及び東京オリンピック・パラリンピック建設需要等による今後の物価動向を踏まえ、建設時期を判断します。	P29 P30 P36
35	7 新庁舎の敷地と配置計画	P29 P30	「新庁舎の建設敷地内ゾーニングイメージ」 ・Bパターンが良いと思います。 〈理由〉 ・二期工事を遅らすことにより、コストメリットが出ると思います。 何故なら、現在の建設工事期間はタイミングが悪いと思います。これからオリンピックに向けて工事が本格化するタイミングと重なりコストアップは避けられない。しかし、市政100周年記念に合わせたい事情も分かります。従って、一期工事と二期工事との共用部分を先行して行う「Bパターン」が良いと思います。(極力後ろにする)		
36	7 新庁舎の敷地と配置計画	P29 P30	まちなみの連続性を考慮した案(Bパターン)が利用しやすく現実的である。		
37	7 新庁舎の敷地と配置計画	P28～ P30	【建設場所】 決定どおりでよい。ゾーニングについて色々な案があるが、前面を駐車場やイベント用広場にしてほしい。		
38	7 新庁舎の敷地と配置計画	P28～30	(A+C案賛同型) ①新庁舎は、現庁舎部分・駐車場部分・宇部税務署部分並びに敷地を挟む市道及び真締川公園側市道を含め有効的に建設する。*正面及び西側市道は広場(緑)とする。 ②新庁舎建設は、将来(人口減)を見据え「まちなみの連続性を最重視」した【万能機能型複合庁舎】を現庁舎&駐車場部分に税務署機能及び立体駐車場含め市内業者にて建設する。 ③今後の児童減に併せた学校統廃合に向け本格協議(6,7年以内)し校区民・市民の賛同を得て「遊休市有地(例)空小学校」にて緊急避難的に活用し仮庁舎(建設中)として運用する。*仮設庁舎の建設が不要となり大幅なコスト減(100億円以下)となる。 ④之らにより、新庁舎建設が容易となり「まちなみの連続性を重視」しつつ一体的に建設が進められ大幅な経費削減ができる。*必要に応じて現庁舎近隣空きビルの活用も有り得る。 新庁舎正面は、宇部市の顔(玄関)に相応しく「市民の憩い(集い)の場」として常盤通りの街並み&真締川公園と共に「緑と花と彫刻のまち」に重きを置き「イベント・コミュニティ・お祭り広場(彫刻/噴水/芝生等整備)」として「緑」を基に一体的利用できるよう大幅整備する。 更に、新庁舎西側では、真締川公園との間の一部市道を有効活用し東西周辺商店街の融合性を高め「新真締川公園」として人の往来が自由に行ける「公園」となるよう正面広場と共に一体利用型「オアシス公園(憩い/集いの広場)」として真締川護岸工事含め大々的に整備する。	①、②:新庁舎の建設敷地については、現庁舎、宇部市駐車場、税務署及びこれらに挟まれた市道を統合した敷地とします。また建設敷地内の配置計画については、何を優先させるかによって、3つのパターンに整理しましたが、それぞれのメリット・デメリットを踏まえ、重視する項目の優先順位を検討し、設計段階において決定します。 ②:建設業者については、規模の大きな事業であるため、市内業者のみでの建設は難しいと考えていますが、市外大手業者と市内業者でJVを組む等、市内業者にも参加いただく方法を検討します。 ③:現段階では、仮庁舎を利用するかどうかは未定ですが、「建設費を抑制するため、可能な限り仮設庁舎を利用しないこと」を配置計画に当たっての重視する点としています。 ④イベントやお祭り広場等の活用を考慮した庁舎前広場は、真締川公園及び常盤通りと繋がり、水と緑と一体になった憩いの空間となるよう検討していきます。 庁舎西側の市道(真締川東通線)については、No.27, 28をご参照ください。	P28～30 P18

No.	意見の項目	該当ページ	意見	意見に対する市の考え方	参考ページ
39	7 新庁舎の敷地と配置計画	P29 P30 (資料編) P44～ P47	<p>【29ページ Aパターンの「デメリット」】 29ページの図の通りの配置とする場合、駐車場ゾーンが常盤通りや栄町線から離れていることをデメリットに加えるべきである。 資料編44ページ「A1案」とする場合、新庁舎と広場が分断されることは「庁舎前広場」としてデメリットになる。同じく「A2案」とする場合、常盤通りに駐車場が面することはデメリットに記載すべきである。 また、駐車場を真締川寄りに整備し常盤通りからアプローチする場合は真締川公園と広場が分断されることがデメリットになる。</p> <p>【30ページ Bパターンの「メリット」】 「常盤通りに面する2期建物により、まちなみの連続性を生み出せる」としているが、常盤通り側の2期庁舎が低層建物である場合、現庁舎や反対側の銀行建物より低くなり、街並みの連続性は維持できないため「メリット」にはならない。 街並みの連続性という観点においてAパターンとの比較で記載するとしても、Cパターンと比べた場合効果は限定的であることを明記すべきである。</p> <p>【30ページ Cパターンの「デメリット」】 「広場は真締川公園に面するが、常盤通りとは接続しない」としているが、真締川東通線や真締川公園、新川大橋と一体的な整備を行えば常盤通りとの接続は実質的に達成可能である。 敷地と河川、敷地前の通り、橋梁の位置関係が類似している事例として、北九州市の紫川沿岸にある商業施設「リバーウォーク北九州」がある。 同施設は最も狭い部分で護岸から約23メートルの位置に建物壁面があるが、建物背後の公園や勝山橋の広場と一体的な空間を形成できている。 新庁舎の建設敷地境界と真締川護岸の幅は20メートル以上あり、仮に敷地一杯に建物を建てたとしても広場と常盤通りの繋がりを確保することは十分可能。 A・Bパターンとの比較で記載するとしても、接続が全くないように読み取れる記述ではなく、あくまでA・Bと比べた場合に接続が限定的であることがわかるように記述すべきである。</p>	<p>本計画では、庁舎、広場、駐車場をゾーンで表現し、代表的な3つの配置パターンを示す段階に留まっており、各パターンのメリット・デメリットについてもゾーニングイメージから導き出される項目を整理し、比較しています。 また、資料編の「配置パターン比較表」は、各パターンの検討例を参考として示したものです。 駐車場へのアプローチや広場の整備方法等についての詳細なメリット・デメリットの比較は、基本設計の中で検討していきますので、頂いたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>	P29 P30 P44～47
40	8 事業手法	P34	<p>村野建築による都市ブランド化しつつある宇部市をさらに推進するため、新庁舎は芸術性に富んだ後世に残る建築作品となることが望まれます。そのためにも村野藤吾賞をはじめとする各賞の受賞歴も評価した公募型プロポーザル方式により設計者を選定する取り組み方針の検討も必要と考えます。</p>	<p>設計者選定プロポーザルの審査基準については、今後の参考とさせていただきます。</p>	P34
41	9 概算事業費及び財源	P35	<p>概算事業費108.1億円、パターンA～Cそれぞれの事業費想定は？ ※建設費抑制の観点から、現行の市役所機能に更に新しい機能を付加する必要はないと考える。 市民に距離的に近い、既存の施設を充実させる見方も忘れない様に進めてほしい。</p>	<p>概算事業費は、3つのパターンの中で最もコストに配慮したAパターンの場合の概算事業費を記載しています。ただし、参考として立体駐車場や仮庁舎が必要となった場合の費用を算定し欄外に記載しています。機能については市民の皆様からの意見を伺いながら、設計段階で検討していきます。</p>	P35
42	9 概算事業費及び財源	P35	<p>新国立競技場の例を懸念したのかもしれないが、少し高すぎるような気がします。 新築工事：一般住宅木造で平米15万程度、鉄筋造で骨格を頑丈に作るとしても平米30万くらいでは。大理石の柱は不必要。 解体工事：一般には、平米1万2千程度ではないかと思います。</p>	<p>想定単価については、近年の庁舎案件の平均単価から決めました。</p>	P35

No.	意見の項目	該当ページ	意見	意見に対する市の考え方	参考ページ
43	9 概算事業費及び財源	P35	市債の一部を市民公募債にしたらいかがでしょうか？ 以前、楠の図書館建設の際、1億円の公募債が1時間30分でさばけたということも聞いています。 マイナス金利の時代、安全な資産運用を考えている市民もいるのではないかと思います。 何よりも市役所の建設に協力したという意識を待たれるのではないかと思います。	概算事業費の財源は、現在、庁舎建設基金:約37.6億円(平成28年度見込)、市債:約64億円、一般財源:約6.5億円と考えています。今後も可能な限り基金の積立てを行うとともに、ご提案いただいた市民公募債の発行や活用できる補助制度等についても調査・研究を行い、市の負担軽減に努めます。	P35
44	9 概算事業費及び財源	P35	新庁舎建設には賛成です。各部門での事業費抑制に充分配慮されていることは認めます。が、さらに建設費の大胆なカットを求めたい。必要最小限の機能と安全性が確保出来ていればよい。 例えば、庁舎本体をコンクリートの打ちっばなしにし、内外装費大幅抑制。議会棟、市長室等の特別仕様は不要、職員の執務室との差別化を図る必要性は全くない。時代の変化に呼応し、発想の転換が必要。 64億円の借入金+利息は人口逡減のもとでの本市にとって、負担は小さくない。当分の間、税収増は望めないうえ、社会保障費増は避けて通れませんので。 長期にわたり、大きな負担を次世代に強いるべきではない。	内外装等については、今後の設計段階で、必要以上に華美な仕様とならないようコストに配慮しながら検討していきます。 事業費については、今後も可能な限り市債の発行抑制を図ることともに、活用できる補助制度等の調査・研究を行い、市の負担軽減に努めます。また、設計段階において、規模、機能について精査を行います。	P35
45	10 スケジュール	P36	【建設時期】 耐震性に問題があるので可能な限り早くやる。(建設費高騰を避けるより命を守る方が優先)	現庁舎は、耐震性能の不足をはじめ、老朽化やユニバーサルデザインへの対応不足等様々な問題を抱えていることから、市としても早急な建替えが必要であると考えていますが、建設時期については建設物価の動向も踏まえ判断します。	P36
46	10 スケジュール	P36	【36ページ スケジュール】 「建設物価の動向によっては見直しを行う可能性」を記載している以上、本計画では具体的な年度は記載せず、「1年次、2年次、・・・〇〇年次」といった表記とすべきである。 また、同様の理由で設計段階と建設段階を分けて記載すべきである。 なお、設計段階はどのパターンも同じであるため、まとめて記載してもよい。	表現を以下のとおり修正します。 「今後のスケジュールについては、設計から建設工事までを一連で進めた場合、以下の通りと想定しています。ただし、建設時期については建設物価の動向を踏まえ判断します。」	P36
47	11 施設管理・運用に関する考え方	P37	エコまち庁舎である為、太陽光等エネルギー効率NO1を目指した設備も必要と考えます。	エネルギー管理に関しては、平成26年3月に策定した「宇部市スマートコミュニティ構想」においても「市役所のスマートビル化」を掲げており、省エネ・創エネに対応していくための設備の導入を設計段階で検討していきます。 なお、導入する設備・機能については、維持管理費を含めたライフサイクルコストを考慮しながら検討します。	P37
48	11 施設管理・運用に関する考え方	P37	【太陽光発電】 1%しか賅えないのに維持費がかかるので不要。		
49	11 施設管理・運用に関する考え方	P37	・緑化工事は、10年先を見越して行ってもらいたい。そして、あまり手がかからないような植樹を選んでもらいたい。(緑化はコストがかかる) ・緑のカーテン(ゴーヤの植樹)等も悪くはありませんが、人手もかかります。環境に優しい設備を初めから計画に入れて設計して貰いたい。	緑化については今後の設計段階で検討していきますが、水や緑と一体となった憩いの空間となる庁舎前広場の整備を計画しています。 また、設備については、設計段階から環境に配慮したCASBEE(建築環境総合性能評価システム)等を取り入れるとともに、省エネルギーに役立てていくスマートビルとなるよう検討していきます。 なお、導入する設備や機能については、いただいたご意見のとおり、維持管理費も含めたライフサイクルコストの比較による検証を行いながら設計段階で決定していきます。	P37

No.	意見の項目	該当ページ	意見	意見に対する市の考え方	参考ページ
50	12 今後の進め方について	P39	<p>①情報公開:シツチョルことが賛同につながる: 市民を巻き込んだ議論を展開するために、また市民に情報をできる限りオープンにするためにも、市広報の中に「新市庁舎建設シリーズ」(仮称)を設け、設計などの進捗状況や市民の思いやその他関連情報を掲載し、市民へのこまめな情報伝達が重要であると思われます。</p> <p>②「基本設計・実施設計業務」の実施方針: 「基本計画」では「新庁舎の求めるべき姿」についての視点が示されたところであり、これらの視点が着実に具現化されることを市民が確認する必要があるとともに市民が深く関わる環境づくりが必要であることから、「基本設計・実施設計業務」設計者選定に係る審査委員の市民参画や透明性、公平性を期するうえでも公開審査など設計者選定のプロセスの“見える化”が求められます。 基本・実施設計業務に係る設計者選定にあたっては、宇部市の風土に根ざした市内の設計事務所開設者も構成員として参加できる仕組みづくりが望まれます。 建設プロセスをさらなる人材育成、市民力アップの絶好の機会と捉え、建設後を見据えた設計業務の推進が重要と考えます。</p> <p>③地元の匠の技を活かした設計への取組: 宇部市の文化・歴史・風土を熟知した市民、各種団体、各業種や建築士などからなる専門分野の意見や声を設計に反映し、宇部市発の「材料の調達」と「匠の技」、そして「宇部市の建築文化」を全国に、世界に発信する絶好の機会とすることが望まれます。</p> <p>④地産地消の推進: 基本設計段階から宇部市に存在する各種建設資材、地域特産、伝統工芸・工法・技能を発掘し、設計に反映するとともに市民総参加による新庁舎づくりを推進し、「元気で輝く宇部市」を目指すことが重要と考えます。</p>	<p>①市としても新庁舎建設については、市民の皆様が積極的に参画し、意見やアイデアを出し合っただけが必要であると考えています。 今後も市ホームページや広報うべ等を通じて、新庁舎建設事業の進捗状況を随時、情報発信していくとともに、市民の皆様が積極的に庁舎づくりに参画し、意見やアイデアを出し合っただけのためのワークショップの開催等、事業の進捗に応じた市民参画を図っていきます。</p> <p>②設計者の選定については、その透明性・公平性の確保のため、プロポーザル方式におけるヒアリング審査を公開で行うことを検討するとともに、選定までの経過等についても市ホームページで公表します。市民の皆様には、設計段階で意見やアイデアを出し合うワークショップ等に参画していただく予定です。 また、市外大手業者と市内業者でJVを組む等、市内業者も参加可能な方法を検討します。</p>	P39
51	その他		庁舎の中の人材育成がもっと大切。力を入れてほしい。	市民の皆様のご期待に添えるよう努めます。	